

同窓会だより

編集発行／岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会事務局
(〒501-0407 岐阜県本巣市仏生寺859-1・TEL (058) 324-1201 FAX (058) 323-0651)

卒業生総数：
29,042人

本巣中学： 2,571人
本巣高女： 2,592人
高校(本巣校舎)： 23,674人
高校(岐阜校舎)： 205人



卒業証書授与式



何を語るや、母校の松

同窓会会長 中島洋晃

平成二十三年

度岐阜県立本巣

松陽高等学校同

窓会入会式が平成二十四年二月二十九日に母校体育館で挙行された。誠に目出度くも二百三十八名の卒業生が伝統ある同窓会に入会された。また、七名の学年理事さんを御委嘱することができました。学年理事を代表し、三好琢磨様より「母校同窓会の発展と母校の隆盛に寄与する」旨の決意を表明され、次代を担う若き力に夢を膨らませること

約一時間の式典が終了し、巣立ち行く卒業生が退場される、その際、在校生や職員及び保護者の盛大な拍手に和やかさと温かさやぬくもりを感じた。そうした中で、卒業生が退場された後に残された椅子席が見事にきちんと揃つていたことには、思わず感嘆の息を飲み込んだ。

「質実剛健」「克己邁進」の校訓のもと、新卒業生一人一人が母校で学んだ多くの事柄が、ささやかながらも実際の場に活かされている尊さを感じた思いである。昨今は、「独りよがり」あるいは「自己中」とか言われるよう、他を顧みず「自分さえ良ければ」といった「独善的な生き方」が横行する中で、母校に学んだ我が新同窓生、さすが「我が同窓生」と誇らしく感じた。

さて、驚愕的国難となつた「東日本大震災」「福島原発事故」の復旧復興を目指して「絆」の大切さが見直されると同時に、一人一人のありようが問われている。被災地である岩

手県陸前高田市の「奇跡の一本松」は、多くの人々を感動させ、生きることの尊さや勇気を与えた。

今、母校の校庭に佇めば、しばし青春時代に回帰させてくれる力がある。母校の校庭や生垣に息づく松樹は、何を語っているのかと感慨にふける。さらに、校庭の一角に凜然として輝く松樹に一步近づき木肌に耳をあてる。天空にそびえる松の大樹、その根っこから枝先までをあらためて見つめ直す。そこには、風雪に耐えごわごわになつた樹皮、さまざまの樹形、石にしがみつくよう地を這う松の根っこなどが見えてくる。その一つ一つは筆舌に尽くせぬ多くのことを聞かせ、教えてくれることに気づくと同時に自身の生き様をあらためて振り返るよすがともなる。

母校に育つ松樹は、私たち同窓会員の一人一人に、人生のあり方に今も尚さまざまに大きな示唆を与え続けていられるのではないか。たとえば、くねり松の樹形の姿に、どんな厳しい環境にも不屈の勢いを失わない強靭なねばりとしなやかさの大切なことを教えているものと思う。艱難の山坂を超えているものと思う。難難の山坂を超えていたとき、あるいは辛苦の谷間を歩まねばならないような人生に出遭うこともある。斯様なときこそ、母校の松樹を思いおこし、校歌を歌つた「つとめてやまじ若人われら」とのお互いを重ね、さらに明日に向かつて「一步前へ」歩みを始めたいものである。

本部総会・懇親会

岩崎 清（昭五十六卒）

平成二十三年度岐阜県立本巣松陽高校同窓会本部総会・懇親会が八月七日（土）にグランベール岐山において開催されました。参加者は今年の当番学年（昭五十六卒）七十人を含め総勢九十一人の参加者で、今回も盛大に開催されました。

総会

司会進行は西尾侑一常任理事（平十六卒）で東日本大震災及び物故者への黙祷、井上修副会長（昭四十五卒）による開会の辞、中島洋晃会長（昭三十六卒）と高賀敦子名誉会長（学校長の挨拶に続いて、天野知子常任理事（昭五十二卒）を議長に、以下）の議題について協議しました。

一、平成二十二年度事業決算報告

一、平成二十二年度本部役員紹介
一、平成二十二年度事業計画・予算

そして、遠山信義副会長（昭四十卒）による閉会の辞で、総会は終りました。

懇親会

運営は例年どおり当番学年（昭和五十六卒）の理事により行いました。岩崎の司会進行により、当番学年代

表の磯谷義人氏によ

る開会の辞、

中島会長によ

る挨拶に続い

て、恩師の紹

介が行われました。

今回恩師としてお招きしたのは、足立光祥、岩田孝、後藤正紀、以上三人の先生方で、御一方ずつ紹介するたびに当番学年の教え子からは懐かしさの声が飛び交っていました。恩師を代表して足立先生から挨拶をいただきました。そして当番学年の

後藤誠治氏による乾杯の発声を皮切りに会食が始り、思い出話などの懐かしい話や近況報告、ジャンケンゲームを交えながら約二時間の懇親会はあつという間に過ぎました。

引き続いて、当番学年の同窓生は、同会場にて恩師を囲んで同窓会を行いました。出席した同窓生は、久しぶりに旧友と再会したとの声が多く、出席して良かったとの声が多く聞かれました。



関西支部

支部長 河村 別

転居で会員数は減る一方にあります。特に、平成元年以降に卒業された、関西在住で住所を把握できている会員の数は僅かに七名という状況で、この先、会を維持していくのも非常に厳しい状況にあります。

また、今回も三百名ほどの会員に案内状を出したのですが、返信用葉書を同封しているにも拘らず、その半数以上は、返事もしてもらえないというモラルの欠如も見られます。

しかし、2年前から始めた出席はできないが通信費程度は寄付をしてよい、という方にお願いしている寄付制度には、今回も9名ほどのご寄付を賜り、応援してくださる方も多いことは事実で、できるだけ会を維持できるようにすることが使命とも考えます。



そんな訳で、関西支部内に限らず、広く同窓会全体から関西に在住会員の情報を、差し支えの無い範囲でお知らせいただければ幸いです。

二十四年度関西支部 総会・懇親会

◎平成二十四年五月二十六日(土)
十二時(ワシントンホテル)

関東支部

支部長 福田英明

平成二十三年度関東支部総会懇親会を四月十六日アルカディア市ヶ谷、私学会館(千代田区九段)で開催致しました。東日本大震災の余震で交通機関に乱れがありましたが本部からは高賀敦子校長、中島洋晃会長の代理として遠藤信義副会長(昭四十九卒)松尾寛美事務局長(昭四十五卒)が出席され会員六十七名、オブザーバー一人、学生一名の参加があり定刻とおり開催しました。最年長は鷺見繁春氏(昭十九卒)が息子さん同伴で出席され最年少は筑間信介市(平十六卒)でした。

総会は田口勉氏(昭四十卒)の司

会進行でこの年逝去された四名の会員と東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り黙祷で始まり支部長の開会挨拶、来賓祝辞に続き二十二年度の事業、会計報告、監査報告があり続いて「航空業界の動向と知つておきたい一般常識」と題され堀部恭平氏(昭五十三卒)が特別講演されました。氏は母校普通科を卒業京都大学工学部機械科を卒業後石川島播磨重工業株式会社(のちIHIに改称)に入社、現在同社の航空宇宙事業本部に在籍されています。講演内容は学業経験をベースに航空事業の発展と歴史について航空機の進化の系譜というハード面とその機能を充分に活用してゆくために発展してきた輸送機の成立過程というソフト面を概説され航空輸送は現在交通、流通の基盤としてなくてはならないがその安全がどう確保されるかについてパネルを使い平易に講演され大変好評を博されました。

懇親会は山田幸雄氏(昭二十二卒)の乾杯で始まり初参加者の紹介、写真撮影そして田口学副会長(昭四十六卒)の司会でビンゴゲームを楽しみ大いに歓談し汲田仁彦氏(昭二十四卒)のリーダーのもと校歌を斎唱し日比野英一氏(昭和三十卒)の

会進行でこの年逝去された四名の会員と東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り黙祷で始まり支部長の開会挨拶、来賓祝辞に続き二十二年度の事業、会計報告、監査報告があり続いて「航空業界の動向と知つておきたい一般常識」と題され堀部恭平氏(昭五十三卒)が特別講演されました。氏は母校普通科を卒業京都大学工学部機械科を卒業後石川島播磨重工業株式会社(のちIHIに改称)に入社、現在同社の航空宇宙事業本部に在籍されています。講演内容は学業経験をベースに航空事業の発展と歴史について航空機の進化の系譜とい

うハード面とその機能を充分に活用してゆくために発展してきた輸送機の成立過程というソフト面を概説され航空輸送は現在交通、流通の基盤としてなくてはならないがその安全がどう確保されるかについてパネルを使い平易に講演され大変好評を博されました。

平成二十三年三月十一日の千年に一度の大震災大津波世界最大規模の原発事故に依る甚大な被害と多数の犠牲者の遺族の方々の心情を察する時同窓会を開催するにいささかの躊躇はありましたが同窓会は「宴」ではありません。母校を同じくする者が集まりお互いに親睦を深め故郷を偲んで語り合う会です。一年一回の会を心待ちにしておられる方もあります。各学年幹事も多用のなか全て実費でこの日の為に頑張って頂いております。開催する事は如何かとの批判もありましたが開催させて頂きました。以上申し添えさせて頂きま



時に厳しく勉
学に体力づく
りに励み、仲
間達との深い
友情を築きな

時同窓会を開催するにいささかの躊躇はありません。母校を同じくする者が集まりお互いに親睦を深め故郷を偲んで語り合う会です。一年一回の会を心待ちにしておられる方もあります。各学年幹事も多用のなか全て実費でこの日の為に頑張って頂いております。開催する事は如何かとの批判もありましたが開催させて頂きました。以上申し添えさせて頂きま

たのではないでしょうか。殆どの方が忘れていたと思いますが、卒業して三十年目は、同窓会懇親会の当番学年です。それぞれ仕事に責任を持つ立場に就かれているか、家庭では子育ての真只中か、少し手が離れた頃だと思います。誰もが毎日忙しく、余暇も無く過ごされていました。人生経験と多くの人の出会いがあつたのではないか。この間探す新たな道を求め、学び舎を卒業してから早くも三十年目を迎える年齢になりました。

この間、同期の皆さんには様々な人生経験と多くの人の出会いがあつたのではないか。この間探す新たな道を求め、学び舎を卒業してから早くも三十年目を迎える年齢になりました。

二十四年度関東支部 総会・懇親会

◎平成二十四年四月二十二日(日)
正午(昨年と同会場にて行います。)

今年度当番学年より
思い返せば、暖かな春の陽光を浴び、希望に夢を膨らませ初めて校門をくぐつから、本巣高校在学中は

恩師の諸先生方、先輩達に優しく、
閉会の挨拶で散会しました。

(昭五十七卒 箕浦 隆)

昭和四十五年卒 還暦同窓会大盛況

平成二十三年九月二十四日、還暦という一つの節目に当たり、学年全体の会を「ホテル十八楼」にて行つた。出席者は総勢百五十三人（内、恩師は十二人）で、盛大に行うことができた。

前年末から準備を進め、各クラス二名の実行委員は高校の同窓会館（銀杏館）でこれまで三回の会合を設け、綿密な計画を立てた。実行委員からは、思いで深いものにしようということで、積極的に様々な趣向が形として示され、それらを活かし当日に備えた。

卒業アルバムからの写真をプレゼンテーションとして示し、過ぎ去りし懐かしき話題として共感を呼んだ。また、我々が三年間でお世話になつた全ての先生に連絡をとり、都合でご出席いただけなかつた方の近況は印刷物で対応した。

十六万二百六十円を本部同窓会に寄付

会は、飲食よりも懐旧の情が先立つほど話が開花したため、会費として集めた残金も多かつた。九年後には本校が創立百周年を迎えるとのことで、参加者の承諾を得て、本巣松陽高校の同窓会に全額寄付することとした。

（昭四十五卒 今村光男）

会員の皆様からの寄付

総額 三十万三千八百七十五円

若原 忠義（昭十七卒）二十二口
鷺見 悅子（昭二十三卒）二口
井上 三男（昭二十四卒）二口
後藤 正紀（昭三十一卒）二口
中島 洋晃（昭三十六卒）二十二口
遠山 信義（昭四十卒）二口
神谷 保夫（昭四十一卒）十口
福田 准子（昭四十三卒）三口
井上 修（昭四十五卒）二口
長屋 秀眼（昭五十卒）二口
郷 和子（昭五十卒）六十口
昭和四十五年卒同窓会より

バドミントン部
・岐阜地区總体 男子団体 第一位
女子団体 第三位
・県高校生バドミントン大会 男子団体 優勝

文化系

自然科学部
・県児童生徒科学作品展 最優秀賞
・県総合文化祭 特別賞

書道部

・県高校総合文化祭 佐久間未来 優秀賞

吹奏楽部

・県吹奏楽コンクール 大編成の部 銀賞
・中部日本吹奏楽コンクール

文芸同好会

・全国高等学校総合文化祭 文芸部門 俳句

体育系

・県スプリングチャレンジカップ 岐阜県大会 大編成の部 優勝

女子バレー部

・県高校総体 女子一部 優勝
・天皇杯全日本選手権大会県予選 第四位

・県高校総体 女子一部 優勝
・天皇杯全日本選手権大会県予選 第三位

・県高校新人大会 準優勝
第3位

ラグビー部

・全国高校ラグビー岐阜県大会 第三位



「銀杏祭（文化祭）」での P.T.A のバザー



伝統の「松の芽摘み」